

5月、あれほど弱々しかった早苗は、梅雨という恵みの雨を受けて、田んぼを一面の緑のじゅうたんに変えるほどに生育しています。その梅雨も明けて、本格的な夏の到来です！

暑さが一段と厳しくなった中でも、着々と市内遺跡の発掘調査を実施しています。この2ヶ月間に終了した遺跡の発掘調査成果、そして埋蔵文化財センターの活動を紹介していきます。

発掘調査だより

1 ニノ畦・横枕遺跡の発掘調査

守山六丁目字水口無において、ニノ畦・横枕遺跡の発掘調査を実施しました。老人ホーム建築に先立ち、5月7日から6月3日までの期間で、約600㎡を調査しました。

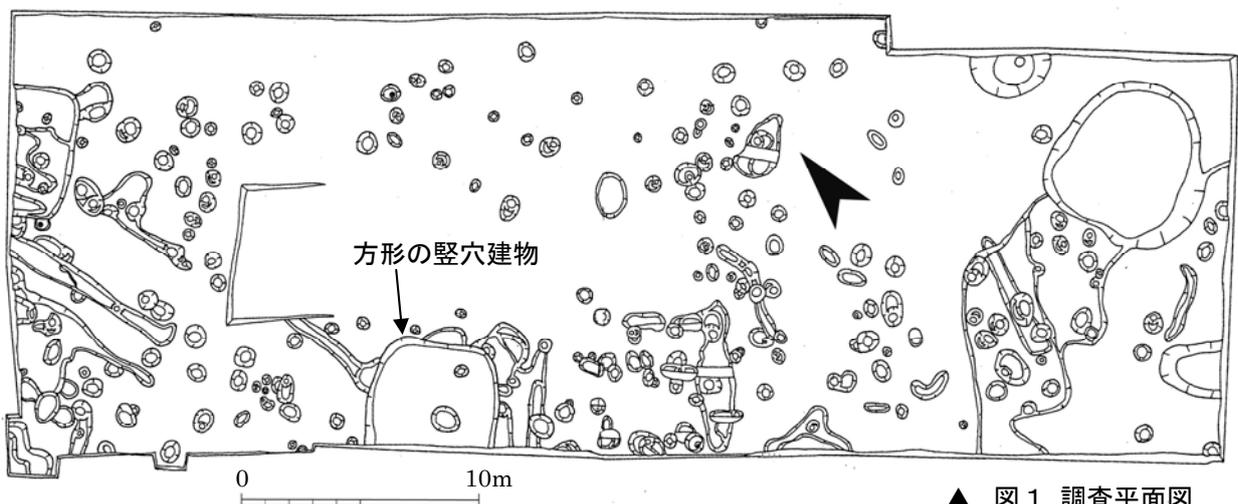
約1.3mの深さの造成土や旧耕作土などを掘り下げた結果、弥生時代から古墳時代後期の遺構を検出しました。弥生時代の遺構は一辺3～4mを測る方形の竪穴建物や土坑で、出土した土器から弥生時代中期末とみられます。

この他にも、溝や土坑、柱穴を多数検出しました。これらの遺構からは須恵器や土師器が出土していて、古墳時代後期の遺構であると考えられます。

今回の調査によって、この周辺には弥生時代中期末と古墳時代後期の集落が広がっていたことがわかりました。土器とともに、滑石製の紡錘車の未成品や滑石が出土していて、このあたりで滑石製品の生産が行われていたことが推測できます。(伴野)



▲ 写真1 方形の竪穴建物



▲ 図1 調査平面図

2 山田町遺跡の発掘調査

勝部三丁目字下中水において、山田町遺跡の発掘調査を実施しました。共同住宅建築に先立ち、6月2日から6月30日までの期間で、約500㎡を調査したものです。

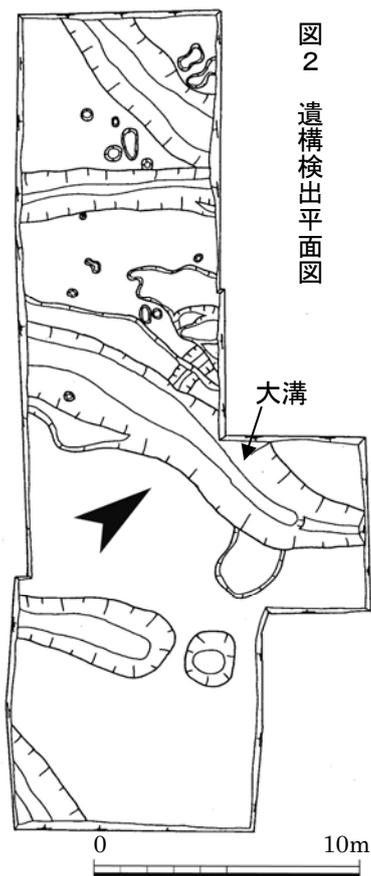
地表面から約1.1mの深さの造成土などを掘り下げた結果、大溝（写真2）や土坑、柱穴等を検出しました。図2のように、大溝は調査区を横断するように東西方向に伸びていて、幅2～4m、深さ約1mの規模を測ります。溝底から弥生時代中期後半の弥生土器が出土していることから、大溝や土坑、柱穴等は弥生時代中期の時期が考えられます。

また、これまでの調査成果から、弥生時代中期の集落の東半部を複数の大溝が巡っていることが想定できます。

（伴野）



▲ 写真2 大溝検出風景



3 下之郷遺跡の発掘調査（96次調査）

下之郷一丁目字シノにおいて、宅地造成工事に伴い、6月9日から6月30日の期間で発掘調査を実施しました。調査地は下之郷史跡公園北エリアの南東側に隣接する地点で、3条環濠の東側に位置しています。

今回は開発面積約525㎡のうち、擁壁工事で遺構が影響を受ける約120㎡を対象に発掘調査を行いました。調査の結果、弥生時代中期から古墳時代後期とみられる溝や柱穴などを検出しました。

このうち、環濠集落と同じ弥生時代中期後半の遺構は南北方向の溝3条が確認されていますが、その他の遺構は希薄な状態でした。今後は3条環濠の外側にある溝の性格や当時の土地利用について解明していく必要があります。また、古墳時代後期の遺構である柱穴や土坑は、隣接する酒寺遺跡さかでらいせきや正福寺遺跡しょうふくじいで検出されている集落の一部が、この地点にも広がっていると考えられます。（小島）



▲ 写真3 調査風景

▼ 写真4 土器出土風景



トピックス

■巡回展「むかしのお金」が埋蔵文化財センターにゴール！

昨年8月から開催していた巡回展「むかしのお金」は埋蔵文化財センターにゴールしました。

この巡回展は、発掘調査で見つかった和銅開珎^{わどうかいほう}や萬年通寶^{まんねんつうほう}など、奈良時代から平安時代に日本でつくられた「むかしのお金」を広くご覧いただくために、小津公民館からスタートして、およそ1年間をかけて市内11カ所で開催してきたものです。埋蔵文化財センターを最後の会場として、8月18日（月）までの期間、展示を行っています。

是非、見学ください。



▲「むかしのお金」展示風景

■平成26年度歴史入門講座 開講！

埋蔵文化財センターでは、前号でもお知らせした平成26年度の歴史入門講座について、お伝えします。本年度の歴史入門講座は、「近江を築いた“ひと”」のテーマの下で、6月21日（土）に第1講を、7月19日（土）に第2講を開催しました。

第1講は、松室孝樹さん（〔公財〕滋賀県文化財保護協会）による「“ひと”をあらわす聖なる象徴—土偶にこめられた縄文人の想い—」という演題で、また、第2講は、大沼芳幸さん（〔公財〕滋賀県文化財保護協会）による「日本人に最も影響を与え続ける男“最澄”—その思想の源流を探る—」と題して、講演していただきました。ともに50名前後の受講者がありました。この入門講座は、11月を除く各月第3土曜に残り4講を開催します。（受講には、事前の申し込みが必要です。）



▲ 第1講（6/21）講座風景



▲ 第2講（7/19）講座風景

【今後の講座日程・演題】※受講には、事前の申し込みが必要です

第3講 8/16（土）「古代史上最大の内乱・壬申の乱—大海人皇子と大友皇子—」

第4講 9/20（土）「城から見た“天下人”—信長・秀吉・家康と近江—」

第5講 10/18（土）「彦根藩井伊家三十五万石を支えた“ひと”—彦根城重臣屋敷の発掘調査から探る—」

第6講 12/20（土）「東北震災復興の今—東日本大震災復興支援発掘調査に携わった“ひと”に聞く—」

埋蔵文化財センター友の会だより

埋蔵文化財センター友の会は、7月20日（日）に第2回見学会を開催しました。

今回は「悠久の時を越え」というテーマで、観音信仰の盛んな湖北地方の長浜市高月町、木之本町の寺院に受け継がれている観音像のいくつかを見学しました。

最初に訪れた高月観音の里歴史民俗資料館で開催されている企画展「戦火をくぐり抜けたホトケたち」の見学後、^{とうがんじ}渡岸寺観音堂、^{しゃくどうじ}石道寺、^{くろだかんのんじ}黒田観音寺で、地域の人々によって守り伝えられている十一面観音像や千手観音像を拝観することができ、有意義な見学会となりました。



▲ 黒田観音寺での千手観音立像の見学風景

お知らせのコーナー

参加者募集！ 夏休み考古学教室

「鏡の鑄造体験 -古墳時代の鏡をつくってみよう！-

埋蔵文化財センターでは、古墳時代の鏡づくりを体験する夏休み考古学教室の参加者を募集しています。詳しくは、広報もりやま8月1日号やホームページに掲載しています。

- 1 内 容 遺跡から出土した小型の鏡をモデルにした鑄型に溶かした合金を流し込んで鑄造し、さらに磨き上げて鏡をつくります。
- 2 日 時 8月20日(水) 午前9:30から11:30分まで
- 3 開催場所 埋蔵文化財センター（屋外）
- 4 参加対象 市内在住の小学生15名
(ただし、小学校3年生以下は保護者同伴。定員に達し次第、締め切ります。)
- 5 参加費 300円（材料費・低温溶解合金代）
- 6 参加方法 8月1日より埋蔵文化財センターで電話受付を行います。



▲ 完成イメージ

【後記】7月20日開催の友の会第2回見学会に随行し、有意義な時間を過ごすことができました。今回のような国宝・重要文化財の仏像の拝観には、地元の皆さんが輪番で対応されているとのこと。大河ドラマ「黒田官兵衛」ブームで見学者が激増する中、土日、祝日を返上してボランティアでの見学者対応には頭の下がる思いです。群雄割拠ぐんゆうかくきょの時代に、土に埋めたり、川に沈めたりして、戦火から仏像を守り抜いた人々の子孫であるという矜持きやうじがなせる業かもしれません。

しかし、見学者対応はかつて、おじいさん、おばあさんと呼ばれる世代が主体的に取り組まれていたのが、現在は働き盛りの若い世代が担い手にならざるえない現状があるようです。仏像を守ってきた祖先と同様に難局を乗り切ってもらいたい。見学会を終え、強く思いました。 (所長)